

実体経済の動向

◇生産、出荷の増勢強まる

(生産——9月も引き続き増加)

9月の鉱工業生産(季節調整済み、前月比、速報)は、前月大幅増加(+2.5%)のあとも、+0.4%と引き続き増加した(原計数の前年同月比+9.5%)。3か月移動平均値の前月比でも、7月+1.4%のあと8月も+0.9%と昨年12月来の増勢基調を持続、順調な上昇過程をたどっている。

この結果、7～9月期通計では前期比+3.0%と、4～6月期(同+2.6%)に増勢鈍化(1～3月期同+3.6%)のあと再びやや伸び率を高めるに至っている。

特殊分類別にみると、建設資材(-3.3%、セメント、金属製建具、鉄骨等が主体)、生産財(-0.8%、粗鋼、合成繊維、ポリエチレン等が主体)、非耐久消費財(-1.3%、洋紙、灯油、既製服等が主体)がそれぞれ反落したものの、反面耐久消費財が大幅反動増(+4.7%、カラーテレビ、脱水洗たく機、乗用車等が中心)を示し、一般資本財

(+1.2%、工作機械、圧縮機・送風機、銅電線ケーブル等)、資本財輸送機械(軽四輪・中型トラック、二輪自動車等)も増勢を持続した。

(出荷——9月もかなりの増加)

鉱工業出荷(季節調整済み、前月比)は、8月(+1.7%)に続き、9月(速報)も+1.9%とかなりの増加を示した(原計数の前年同月比+8.7%)。もっとも、これには船舶の著増がかなり響いているが(船舶を除く出荷では+0.4%)、基調的には生産同様上昇傾向を続けている(3か月移動平均値の前月比、6月+0.8%→7月+0.3%→8月+1.1%)。

なお、7～9月期通計では、前期比+2.2%となり、4～6月期(同+1.6%)比やや増勢を強めている。特殊分類別にみると、生産と同様、建設資材(-3.9%、セメント、板ガラス、金属製建具等が中心)、生産財(-2.5%、圧延鋼材、アルミニウム、重油等が中心)、非耐久消費財(-2.5%、合成洗剤、プラスチック製品、既製服等が中心)がいずれも反落したが、一方前月落込みを示した資本財輸送機械(乗用車<1,500～2,000cc>、軽四輪・中型トラック、船舶等が主体)および耐久消費財(+4.4%、カラーテレビ、乗用車<360cc超>、

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	46年		47年		47年		
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7月	8月	9月
鉱工業指数	230.0	229.8	238.1	244.3	247.1	253.4	254.4
前期(月)比	3.7	-0.1	3.6	2.6	-0.2	2.5	0.4
前年同期(月)比	4.1	4.3	6.1	9.9	8.7	11.1	9.5
投資財	3.0	-0.6	7.0	2.4	1.4	5.0	-0.2
資本財	3.1	-0.8	8.0	2.0	1.8	5.0	1.2
同(輸送機械を除く)	1.1	-1.6	10.9	1.4	5.5	4.4	1.2
輸送機械	7.5	1.3	1.5	3.5	-6.9	6.3	—
建設資材	2.7	0.2	4.0	3.8	1.1	4.7	-3.3
消費財	3.3	1.5	1.2	3.9	-1.5	1.2	2.9
耐久消費財	8.1	3.8	3.4	1.9	-0.6	4.3	4.7
非耐久消費財	-0.3	-0.2	0.1	4.4	-2.3	1.7	-1.3
生産財	4.6	-0.5	2.2	1.8	-0.3	2.9	-0.8

(注) 1. 通産省調べ、47年9月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	46年		47年		47年		
	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7月	8月	9月
鉱工業指数	220.8	219.7	230.5	234.3	235.3	239.2	243.7
前期(月)比	2.5	-0.5	4.9	1.6	-0.3	1.7	1.9
前年同期(月)比	4.7	4.6	7.6	8.7	7.4	10.6	8.7
投資財	2.0	0.2	7.7	-0.4	1.7	-1.9	6.9
資本財	1.9	0.0	9.0	-2.2	2.0	-1.4	11.8
同(輸送機械を除く)	4.0	-2.7	12.3	-2.0	2.6	3.3	0.6
輸送機械	-1.9	4.6	5.0	-3.5	0.6	-4.6	—
建設資材	2.3	0.9	3.6	4.9	0.3	4.4	-3.9
消費財	1.6	-0.8	3.3	3.2	-2.9	-0.2	2.0
耐久消費財	5.0	-1.8	2.6	3.5	-1.3	-4.2	4.4
非耐久消費財	0.2	-0.2	3.2	2.8	-3.8	3.1	-2.5
生産財	3.0	-0.4	3.5	2.5	0.5	-2.6	-2.5

(注) 1. 通産省調べ、47年9月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

電気冷蔵庫等が主体)が大幅反動増となり、また一般資本財(+0.6%、工作機械、圧縮機・送風機、トラクターが主体)も引き続き増加した。

(製品在庫——3か月連続の増加)

9月の生産者製品在庫(季節調整済み、前月比、速報)は、+1.4%と前月(+1.6%)に続きかなりの増加を示し、7月以降3か月連続の増加となった。3か月移動平均値の前月比でも、7月+0.4%、8月+1.1%と7月以降増勢傾向に転じており、製品在庫投資の回復がうかがわれる。

この結果、7~9月期末生産者製品在庫は、前期末比+3.4%と3期ぶりに増加した。

特殊分類別にみると、資本財輸送機械が大幅減少(乗用車、トラックの減少が主因)したほかは、各財とも軒並み増加、なかでも建設資材(+3.4%、セメント、板ガラス、コンクリート・パイル等が中心)、耐久消費財(+3.3%、エアコンディショナ、白黒テレビ、乗用車<360cc以下>等が中心)の増加が目だっている。

この間、生産者製品在庫率(季節調整済み)は、上記のように出荷の伸びが生産の伸びを上回ったため、101.5と前月(102.0)比0.5ポイントの小幅低下を示した。

鉄工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減率・%)

	46年(期別)		47年(期別)		47年(月別)		
	9月	12月	3月	6月	7月	8月	9月
鉄工業	238.8	245.3	241.8	239.2	240.1	244.0	247.4
指数							
前期(月)末比	0.0	2.7	-1.4	-1.1	0.4	1.6	1.4
前年同期(月)末比	12.4	6.4	1.5	-0.2	1.2	0.1	2.6
製品在庫率	105.7	109.4	102.9	101.3	102.0	102.0	101.5
指数							
投資財	-2.7	0.4	5.5	-1.3	1.1	3.5	0.3
資本財	-6.1	-1.9	-11.4	2.3	2.3	5.8	-2.4
同(輸送機械を除く)	-2.5	-4.5	-11.8	2.8	4.7	3.7	1.5
輸送機械	-21.8	-10.3	-8.1	-3.6	-5.3	16.7	-
建設資材	3.0	3.7	3.7	-5.0	-0.9	0.2	3.4
消費財	-3.7	4.2	1.7	-0.4	1.3	2.3	2.4
耐久消費財	-13.2	5.8	9.5	1.5	-0.6	1.6	3.3
非耐久消費財	4.0	5.5	-6.5	-2.0	3.1	2.5	0.3
生産財	5.7	1.8	0.0	-2.9	-0.8	-0.3	1.1

(注) 1. 通産省調べ、47年9月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

下を示した。

(原材料在庫——9月は横ばい)

原材料在庫(製造工業、季節調整済み、前月比)は、8月に3か月ぶりに小幅増加(+1.1%)のあと、9月(速報)は横ばいにとどまった。3か月移動平均値の前月比でならしてみると、海員ストによる6、7月の落込みが大きく響き、7月-2.4%のあと8月も-0.4%と4か月連続の減少となっているが、その減少幅はかなり縮小している。

特殊分類別では、国産分(-0.7%)が素原材料(鉄くず、石灰石、鉛鉱、亜鉛鉱等)の減少を主因に4か月連続の減少となったが、一方輸入分(+2.4%)は、素原材料(鉄鉱石、ボーキサイト、原油、羊毛等)および製品原材料(溶解パルプ、石油、コークス等)がともに増加したため、前月(+4.1%)に続きかなりの増加を示した。

また、業種別では、鉄鋼、化学、機械、紙・パルプ、繊維等が減少したが、反面、非鉄、窯業・土石、石油、金属、皮革等がいずれもかなりの増加となった。

この間、原材料在庫率指数は、在庫が上記のように横ばいにとどまったものの、消費が鉄鋼、化学、紙・パルプ、金属、非鉄等を中心に小幅減少

製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	47年(期別)			47年(月別)		
	3月	6月	9月	7月	8月	9月
在庫指数	192.2	187.1	185.0	183.0	185.0	185.0
前期(月)末比	1.3	-2.7	-1.1	-2.2	1.1	0.0
国産分	1.6	1.1	-3.3	-2.4	-0.2	-0.7
素原材料	5.1	-0.2	-10.3	-6.7	1.6	-2.2
製品原材料	1.6	1.6	-1.3	-1.2	0.6	-0.6
輸入分	1.6	-12.9	5.3	-1.1	4.1	2.4
素原材料	1.5	-13.7	5.6	-0.7	4.1	2.2
在庫率指数	93.3	88.6	85.4	85.4	84.9	85.4
国産分	86.8	85.4	80.9	82.0	80.8	80.9
素原材料	125.3	120.8	106.0	109.8	106.6	106.0
製品原材料	80.4	79.4	76.8	77.3	76.7	76.8
輸入分	112.5	97.7	96.8	96.2	95.4	96.8
素原材料	113.6	97.8	97.4	92.1	96.1	97.4

(注) 通産省調べ、47年9月は速報。

(季節調整済み、前月比 -0.6%)となったため、85.4と前月(84.9)比0.5ポイント上昇、7月と同水準となった。

(販売業者在庫——8月は微減)

8月の販売業者在庫(季節調整済み、前月比、速報)は、前2か月かなりの増加(6月+3.6%、7月+1.5%)のあと、その反動もあって-0.3%の微減となった。もっとも、3か月移動平均値の前月比で見ると、5月以降3か月連続の増加となるとともに、その増勢を強めており(5月+0.7%→6月+0.8%→7月+1.6%)、流通在庫投資の回復傾向がうかがわれる。

8月の動きを品目別にみると、非鉄金属(+3.8%、すず、ニッケル等)、民生用電気機械(+3.1%、ステレオ、テープレコーダー等)、石油製品(+2.3%、灯油、ガソリン等)が増加したが、一方、糸(-4.2%、毛糸、ビスコース人絹糸等)、繊維原料(-3.7%、合成繊維)、自動車(-2.1%、軽四輪・小型トラック)、洋紙(-6.5%)等がそれぞれかなりの減少を示した。

販売業者在庫の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	12月(期別)		47年(月別)			
	46年	3月	6月	6月	7月	8月
総合指数	186.0	182.6	186.3	186.3	189.1	188.6
前期(月)末比	-3.1	-1.8	1.9	3.6	1.5	-0.3
素原材料	-4.5	12.3	1.2	-9.0	-6.6	1.2
製品	-3.1	-2.5	2.1	4.9	2.1	-0.5

(注) 通産省調べ、47年8月は速報。

(設備投資——関連指標はいずれも増加基調)

設備投資と関連の深い一般資本財出荷(季節調整済み、前月比)は、前2か月増加(7月+2.6%、8月+3.3%)のあと、9月(速報)も+0.6%と引き続き小幅増加を示した。3か月移動平均値の前月比で見ても、7月+0.9%のあと、8月も+2.2%と6月以降3か月連続の増加となっている。

この結果、7~9月期通計では、前期比+5.4%と、4~6月期(同-2.0%)の落込み(1~3月期

に前期比+12.3%と大幅増加した反動)のあと再びかなりの増加に転じた。

9月の動きを品目別にみると、普通鋼鋼管、銅電線ケーブル、機械プレス、歩行用トラクター耕うん機等が減少したものの、一方、工作機械、トラクター、圧縮機・送風機、動力脱穀機等がそれぞれかなりの増加を示した。

9月の機械受注(船舶を除く民需、季節調整済み、前月比)は、+20.2%と前月(+23.0%)に引き続き大幅な伸びを示し、3か月移動平均値の前月比で見ても8月は+10.1%と4か月ぶりにかなりの増加に転じた(原計数の前年同月比+12.9%)。この結果、7~9月期通計では前期比+4.4%と4~6月期微減(同-0.1%)のあと、再び小幅ながら増勢に転じた。

9月の受注内容を業種別にみると、非製造業(+34.4%)が電力の著伸(+95.9%)を映じ大幅伸伸を示したほか、製造業(+9.2%)も機械(+10.8%)、繊維(+23.1%)、化学(+21.5%)、石油(+78.3%)、自動車(+3.3%)等を中心に6月以降4か月連続して増加した。

建設工事受注額(民間産業分、季節調整済み、前月比)は、7月+18.9%、8月+4.8%と増加のあと、9月(速報)も+1.3%と3か月連続して底堅い伸びを続けた。この結果、7~9月期通計では、前期比+9.4%と2期連続して増加、4~6

需要別機械受注の推移

(季節調整済み月平均、単位・億円)

	47年			47年		
	1~3月	4~6月	7~9月	7月	8月	9月
民需	2,200	1,890	2,070	1,760	1,934	2,516
	(-5.1)	(-14.1)	(9.5)	(4.5)	(9.9)	(30.1)
同(船舶を除く)	1,786	1,785	1,864	1,507	1,854	2,229
	(6.4)	(-0.1)	(4.4)	(-12.2)	(23.0)	(20.2)
製造業	882	789	980	907	972	1,061
	(23.4)	(-10.5)	(24.2)	(14.7)	(7.2)	(9.2)
非製造業	1,320	1,091	1,072	851	990	1,376
	(-18.7)	(-17.3)	(-1.7)	(0.0)	(16.3)	(39.0)
同(船舶を除く)	912	1,010	900	635	881	1,184
	(-8.5)	(10.7)	(-10.9)	(-31.5)	(38.7)	(34.4)

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減率(%)。

月期(同+5.9%)に比べ一段と増勢を強めている。

一方、官公需(季節調整済み、前月比)は、前月著増(+33.6%)のあと、9月も+20.6%と引き続き大幅増加を示し、原計数の前年同月比でみても、8月+36.3%、9月+39.5%と高水準の伸びを持続している。

なお、7~9月期通計では、前期比+18.5%と、4~6月期に暫定予算の影響もあって反落(同-7.6%)のあと、再びかなりの増勢に転ずるに至っている。

◇商品市況は騰勢やや鈍化ながら引き続き強基調

10月の商品市況をみると、鋼材、くず鉄、そ毛糸、生糸は上げ渋りないし訂正安商状を呈したものの、木材、アート・コート紙、綿糸、スフ糸が一段高くないし反発に転じたほか、石油製品、セメント、合成樹脂、クラフト紙、段ボール原紙等もじり高を続け、総じてみれば騰勢はいくぶん鈍化したもののなお強基調を持続した。

鋼材、そ毛糸等が上げ渋り商状となったのは、生産枠の増加(鋼材)や高値警戒感(そ毛糸)などから一部の問屋、ユーザー筋が若干買い控えに転じたことによるもので、需給関係についてはこれまでのひっ迫基調に変化はない。

すなわち、需要面では官公需、非製造業等設備投資や民間住宅建設の関連需要を中心に最終需要が増勢を持続しているのに対し、供給面では一部の品目ではすでに生産能力に余力がないとみられる(棒鋼、形鋼、セメント)ほか、能力に余剰のある品目でも不況カルテル等により生産調整が継続されている(合繊、合成樹脂、石油製品等)。そのほか海外市況高騰の影響についても、羊毛は訂正安となったものの、木材は続騰し、これまで弱基調を続けた非鉄金属でも上昇気配がうかがわれはじめるなど、商品市況を押し上げる大きな要因となりつつあることも見のがせない。

品目別の動きは次のとおり。

鉄鋼……亜鉛鉄板は小反発となったものの、棒鋼、山形鋼が小幅ながら訂正安を示したほか、H

形鋼、薄板、厚板、くず鉄等も騰勢鈍化ないし上げ渋りを続けるなど、総じて上伸一服商状を持続した。

これは、①一部品種(H形鋼、溝形鋼等)について再び市況過熱の可能性が強まってきたこともあって、10~12月期の当初のガイドポスト(粗鋼生産2,520万トン)を増枠する方針が打ち出されたこと、②メーカー側が、不況カルテル下の市況続騰に対するユーザー筋の反発を懸念して、販価の引上げを一部品種にとどめていること、など供給面の要因によるところが大きい。この間、こうした情勢をながめて大手商社、ユーザー筋の一部では買い控えに転ずる向きも散見されるが、総じてみれば、当面官公需のしり上がりの増大や非製造業を中心とする設備投資関連需要の堅調が見込まれることから、在庫補充意欲は依然としておう盛である。

織維……生糸が小甘い動きを示し、そ毛糸も頭重い商状に転じたが、合成織維が強保合いを続け、さらにこれまでもみ合いのない弱気配であった綿糸、スフ糸も強含みとなるなど、総体としてみれば強基調を持続した。

これは、定期市場の軟化に伴う織物採算の好転から機屋の糸手当てが回復したこと(綿糸)、ニッターの順調な糸手当てが続いていること(スフ糸)、さらに、そ毛糸のこれまでの高騰に伴い代替需要が増加していること(合繊ステープル)など、需要の回復ないし増加による面が大きい。

非鉄金属……さすが産地高を映じて強含み商状を続け、亜鉛も海外建値の引上げ予想から強気配となったが、ユーザー筋の在庫補充慎重化を映じて、鉛が弱保合いとなったほか銅も続落したため、総じてみれば軟弱商状を示した。

銅が下落したのは、海外市況の軟化懸念などから問屋、ユーザー等が在庫補充を慎重化したうえ、月末接近とともに、11月積み分の建値引下げを見越して買控えに出たためである。

石油……灯油が続騰したほか、ガソリン、軽油、C重油も堅調を持続した。これには生産調整

など市況対策の効果もあるが、官公需の堅調持続のほか、需要期入り(灯油等)や関連業界(電力、紙・パルプ)の増産に伴う燃料需要増、輸送関連需要増など、需要面の要因によるところが大きい。

セメント……国内向け出荷は、月初来25日までで前年比+28.9%と前月伸び悩み(同+11.2%、天候不順が主因)のあと再び増勢を強め、近來にない高水準の伸びを示している。こうした出荷著伸の特殊要因として、前年10月の水準が低かったこと(前々年比伸び率、9月+5.9%、10月-3.7%、11月+6.3%)を考慮する必要はあるが、かなりの部分は実需が官公需(新幹線、高速自動車道、港湾、住宅公団アパート建設等)、民間需要(貸ビル、マンション、宅地造成など非製造業設備投資、民間住宅投資関連が中心)とも一段と盛り上がりを見せていることの反映とみられる。

木材……内地材は、9月に上伸一服となったあと、10月にはいってから再び騰勢に転じ、後半も大勢堅調な地合いを続けた。市中のおおかたの予想に反し、内地材がここにきて一段と値を上げた背景には、①民間住宅関連を中心とする実需の着実な増大、②産地からの出荷低調、といった需給両面の要因のほか、とくに最近では、③外材の市況高騰が内地材の相場刺激材料として作用していること、などの事情があるものとみられる。

化学品……合成樹脂では、塩ビの値上げ(9月下旬積み分から12%の値上げ)がほぼ一巡したほか、ポリエチレン、ポリスチレン等も引き続き強含みに推移した。これは、官公需、住宅関連需要(塩ビ)、個人消費関連需要(自動車部品向けポリスチレン、家

庭用品向けポリエチレン等)を中心に実需が増加を続けていることが主因である。また、基礎薬品類でも硫酸、カセイソーダを中心に上伸気配が強まっている。これは、①化学肥料、酸化チタン向け(硫酸)、紙・パルプ向け(カセイソーダ)など関連業界の増産に伴う需要増、②非鉄精錬各社の減産継続に伴う副生硫酸の供給減によるものである。

紙……洋紙では実需の好調を映じてアート・コート紙が一段高となったのをはじめ、クラフト紙、中質紙がじり高、上質紙、純白ロール紙が上伸気配を強めるなど市況は総じて堅調を持続した。これは、需要面でカレンダー、カタログ、包装紙等年末商戦用商業印刷向け(アート・コート紙、上質紙、純白ロール紙)が顕著な伸びを示していること、新年号を控えた出版関係の需要(アート・コート紙、上質紙、中質紙)が出はじめたこと、中国、東南アジア向け輸出が好伸(クラフト紙)していること、などによるものである。

卸売物価指数の推移

(単位・%)

	ウェイト	前年度比 上昇率		最近の推移(前月(旬)比上昇率)						
		45年度 平均	46年度 平均	47年			47年10月			
				8月	9月	10月	上旬	中旬	下旬	
総平均	100.0	2.4	-0.8	0.7	0.9	1.0	0.5	0.2	0.3	
食料品	15.7	2.4	3.2	0.4	0.6	0.6	0.1	0.1	0.2	
繊維品	10.7	5.2	-1.8	1.0	2.8	3.3	2.3	0.7	-0.2	
鉄鋼	9.7	2.2	-7.9	1.0	0.6	0.3	0.1	保合	0.1	
非鉄金属	4.4	-7.6	-11.6	-0.6	1.9	-1.1	-0.7	保合	-0.4	
金属製品	3.8	4.2	-0.5	0.2	0.2	0.4	0.2	0.1	0.3	
機械器具	22.1	1.5	0.1	0.2	0.2	0.1	保合	保合	保合	
石油・石炭・同製品	5.6	4.5	9.8	0.7	保合	0.3	0.4	-0.1	保合	
木材・同製品	6.2	3.4	-4.7	3.9	2.2	4.1	2.1	1.2	2.6	
窯業製品	3.0	4.8	1.9	保合	0.2	0.3	0.1	0.1	0.3	
化学品	7.6	0.5	-0.2	0.2	0.3	0.4	0.3	保合	保合	
紙・パルプ・同製品	3.4	6.7	-1.2	0.7	0.8	0.4	保合	保合	0.3	
雑品目	7.9	3.4	0.4	0.8	1.0	1.0	0.3	0.4	0.5	
工業製品	82.0	3.0	-0.8	0.6	0.7	0.7	0.4	0.3	0.3	
うち大企業性	59.6	1.5	-1.2	0.2	0.5	0.4				
中小企業性	21.0	6.5	0.2	1.5	1.2	1.9				
非工業製品	18.0	-0.1	-0.8	1.2	1.7	1.8	0.9	0.2	0.2	

(注) 日本銀行調べ。

一方、段ボール原紙でも、最大の需要先である野菜、くだもの等生鮮食料用の年末需要が急増していることに加え、メーカーは平均25%程度の減産を実行していることから需給はひっ迫傾向を示しており、市況は強含みに推移した。

砂糖……国内砂糖相場(現物)は、メーカー協調態勢の乱れを懸念して弱含みに推移した。

(卸売物価——大幅な上昇)

10月の卸売物価は、8月(前月比+0.7%)、9月(同+0.9%)と急上昇したあと、前月比+1.0%(前月からのゲタ+0.3%)と34年8月(同+1.0%)以来の大幅な上昇を示現した。

これは、非鉄金属が反落したものの、繊維品、木材・同製品が一段と騰勢を強め、食料品、雑品目(皮革関連、飼料等)、鉄鋼、化学品等も続騰するなどほぼ全面高となったためである。

(工業製品生産者物価——騰勢強まる)

工業製品生産者物価は、8月前月比+0.5%のあと、9月は同+0.7%と騰勢を強めた(前年同月比+1.9%)。これは、天然および化学繊維、木材・同製品、非鉄金属等がかなりの上昇を示すなど、ほぼ全面高となったためである。

(消費者物価(東京)——小幅上昇)

東京都区部消費者物価(総合、速報)は、9月にかなり上昇(前月比+1.1%)のあと、10月は、くだもの、野菜、生鮮魚介を中心に食料費が下落したため、前月比+0.2%にとどまった。

しかし、季節商品を除く総合では、被服費、住居費の値上がり(秋冬物衣料、家賃・設備修繕費等)から前月比

+0.7%(前月同+0.4%)とこれまでの騰勢基調を持続した。

なお、9月の全国消費者物価は、8月かなり上昇(前月比+0.8%)のあと、前月比+0.5%といくぶん騰勢を弱めた(前年同月比では+3.3%)。

これは、被服費が秋冬物衣料の値上がりから上昇したものの、雑費が火災保険料の値下げを主因に下落し、住居費、光熱費も落ち着いた動きを示したためである。

(輸出入物価——輸入物価は大幅上昇)

輸出物価は、8月前月比-0.1%と続落のあと、9月は同+0.1%と小幅反発した(前年同月比-2.8%、船舶を除くと、前月比+0.3%、前年同月比-2.5%)。これは、輸送用機器が続落したものの、化学製品が反発し、繊維品、金属・同製品等も続騰したためである。

輸入物価は、8月前月比+0.3%と反騰に転じ

工業製品生産者物価指数の推移

(単位・%)

	ウェ イト	前年度比上昇率		最近の推移 (前月比上昇率)		
		45年度 平均	46年度 平均	47年		
				7月	8月	9月
総 平 均	100.0	2.5	-0.9	0.2	0.5	0.7
食 料 品	12.6	4.3	2.9	0.3	0.3	0.2
天然および化学繊維	3.0	6.7	-6.6	-1.1	1.7	4.8
合 成 織 維	1.4	-6.8	-15.4	-0.2	0.3	0.3
織 物	2.8	1.5	-3.4	-0.7	2.1	1.7
織 維 二 次 製 品	3.2	7.4	2.9	0.1	1.1	1.2
普 通 鋼 鋼 材	7.2	0.8	-7.8	0.4	0.6	0.4
特 殊 鋼 鋼 材 其 他	2.5	5.5	-0.3	保 合	0.2	0.1
非 鉄 金 属	4.4	-6.5	-8.7	-2.0	-0.6	2.0
金 属 製 品	4.6	3.1	-1.0	0.3	0.2	保 合
一 般 機 械	10.4	3.3	1.2	0.2	0.6	0.4
輸 送 機 械	8.3	0.2	0.4	保 合	-0.1	0.1
電 気 機 械 器 具	9.1	1.1	-2.1	保 合	-0.3	保 合
石 油 ・ 石 炭 製 品	3.7	4.6	9.3	0.1	0.2	0.3
木 材 ・ 同 製 品	5.0	6.3	-3.3	1.6	2.3	2.7
窯 業 製 品	3.4	2.9	1.9	保 合	保 合	0.2
化 学 製 品	7.8	-0.2	-0.7	-0.1	0.2	0.2
紙 ・ パ ル プ ・ 同 製 品	4.5	6.0	-0.8	1.3	1.7	0.8
雑 品 目	6.1	3.2	0.8	0.7	0.6	0.5

(注) 日本銀行調べ。

消費者・輸出入物価指数の推移

(単位・%)

消費 者 物 価	ウエ イト	前年度比 上昇率			最近の推移 (前月比上昇率) 47年			最近 月の 前年 同月 比	
		45年度 平均	46年度 平均	8月	9月	10月			
東 京 都 物 価	総 合	100.0	6.9	6.0	0.7	1.1	0.2	3.8	
	(季節商品を除く)	91.3	6.3	6.6	0.4	0.4	0.7	5.6	
	食 料	40.3	7.4	5.9	1.1	2.3	0.3	1.2	
	住 居	11.8	5.5	3.7	0.4	0.2	0.3	5.4	
	光 熱	3.7	1.1	1.3	9.8	0.1	保 合	9.0	
	被 服	12.4	11.0	8.5	1.6	2.2	0.9	4.4	
	雑 費	31.8	5.7	6.7	0.4	0.4	0.2	5.7	
	特 殊 分 類	農 水 畜 産 物	16.6	6.0	1.6	2.3	5.1	…	6.6
	工 業 製 品	43.6	8.0	5.5	0.5	0.7	…	3.5	
	うち 大企業製品	19.8	—	2.6	0.1	0.1	…	1.1	
中小企業製品	23.8	—	7.9	0.6	1.3	…	5.5		
サ ー ビ ス	37.0	5.9	7.8	1.3	0.2	…	8.5		
全 国	総 合	100.0	7.3	5.7	0.8	0.5	…	3.3	
	(季節商品を除く)	91.0	6.3	6.2	0.2	0.6	…	4.5	
上 の 都 市 以 下	総 合	100.0	7.4	5.8	0.9	0.6	…	3.3	
	(季節商品を除く)	91.0	6.4	6.3	0.1	0.6	…	4.5	
輸 入 物 価	輸 出	/	3.5	1.8	0.1	0.1	…	2.8	
	輸 入	/	0.4	1.4	0.3	1.3	…	3.7	
	交 易 条 件	/	1.6	1.0	0.3	1.4	…	1.0	

(注) 1. 消費者物価は総理府統計局、輸出入物価は日本銀行調べ。
2. 47年10月は速報。

たあと、9月は同+1.3%と月中としては41年1月(同+1.3%)以来の大幅上昇を示した。これは、繊維品が羊毛の急上昇などから急騰したほか、食料品、雑品目等も騰勢を強めたためである。

この結果、9月の交易条件指数(102.3、45年平均=100)は、前月比-1.4ポイントと8月(-0.3ポイントの悪化)をかなり上回る悪化を示した。

◇国際収支は輸出の著増から大幅黒字

9月の国際収支は総合収支で579百万ドルの大幅黒字となり、前月(557百万ドルの黒字)に引き続き黒字幅を拡大した。

これは、貿易外収支の赤字幅が拡大(164百万ドル、前月95百万ドル)したほか、短期資本収支が前月を下回る流入超(159百万ドル、前月325百万ドル)にとどまったものの、貿易収支が大幅な黒

字(918百万ドル、前月729百万ドル)を示したためである。

9月の貿易収支を季節調整後でみると、輸入が、海員スト解決に伴う反動から著増をみた前月に比べ伸び率が鈍化(前月比+2.6%、前月同+17.8%)した反面、輸出が、船舶の引渡し集中などもあってかなりの増加(前月比+7.4%、前月同+4.0%)を示したため、収支じりでは789百万ドルの黒字(前月659百万ドルの黒字)と本年7月(823百万ドルの黒字)に次ぐ大幅な黒字となった。

長期資本収支は315百万ドルの流出超と、前月同346百万ドル)に比し、やや流出超幅を縮小した。これは、本邦資本が邦銀現地貸与の増加などから流出超幅を拡大(462百万ドル、前月同397百万ドル)したものの、外国資本が

対日証券投資の流入増などから流入超幅を大幅に拡大(147百万ドル、前月51百万ドル)したためである。

金融勘定では、海外短資の取入れがかなりの増加をみたものの、輸出手形の買取り増などから為銀ポジションは409百万ドルの大幅な好転を示し、月末の資産超過額は477百万ドルとなった。この間、外貨準備高は117百万ドル増加し、月末には16,489百万ドルとなった。

9月の輸出(国際収支ベース)は、季節調整済み前月比で+7.4%、原計数の前年同月比でも+25.0%と前月(季節調整済み前月比+4.0%、原計数の前年同月比+16.1%)に引き続きかなりの増加となった(なお、通関ベースでの邦貨表示額でも前年同月比+11.6%とかなりの増加)。

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	47 年			47 年			46 年 9 月
	1～3月	4～6月	7～9月	7 月	8 月	9 月	
経 常 収 支	960	1,224	2,095	750	626	719	673
貿 易 収 支	1,690	1,996	2,618	971	729	918	851
輸 出	6,017	6,473	7,347	2,390	2,374	2,583	2,067
輸 入	4,327	4,477	4,729	1,419	1,645	1,665	1,216
貿 易 外 収 支	△ 581	△ 556	△ 461	△ 202	△ 95	△ 164	△ 167
移 転 収 支	△ 149	△ 216	△ 62	△ 19	△ 8	△ 35	△ 11
長 期 資 本 収 支	△ 759	△ 738	△ 1,144	△ 483	△ 346	△ 315	△ 87
本 邦 資 本	△ 836	△ 935	△ 1,404	△ 545	△ 397	△ 462	△ 171
外 国 資 本	77	197	260	62	51	147	84
基 礎 的 収 支	201 (735)	486 (584)	951 (604)	267 (119)	280 (210)	404 (275)	586 (485)
短 期 資 本 収 支	827	△ 204	682	198	325	159	△ 203
誤 差 脱 漏	△ 53	137	△ 95	△ 63	△ 48	16	△ 122
総 合 収 支	975	419	1,538	402	557	579	261
金 融 勘 定	975	419	1,538	402	557	579	261
外 貨 準 備 増 減	1,428	△ 818	644	39	488	117	870
そ の 他	△ 293	1,237	894	363	69	462	△ 609
外 貨 準 備 高	16,663	15,845	16,489	15,884	16,372	16,489	13,384
為 銀 対 外 ポ ジ シ ョ ン	△ 1,734	△ 477	477	9	68	477	△ 348

- (注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国 際 収 支			通 関		輸 出	輸 出	輸 入
	輸 出	輸 入	貿 易 じ り	輸 出	輸 入	信 用 状	認 証	承 認
47 年 1 ～ 3 月	2,193 (+ 5.2)	1,451 (+ 6.7)	742	2,249 (+ 6.3)	1,803 (+ 6.0)	1,723 (+ 2.4)	2,397 (+ 8.7)	1,734 (+ 7.1)
4 ～ 6 〃	2,176 (- 0.8)	1,478 (+ 1.8)	698	2,212 (- 1.7)	1,826 (+ 1.2)	1,751 (+ 1.7)	2,303 (- 3.9)	1,793 (+ 3.4)
7 ～ 9 〃	2,367 (+ 8.8)	1,610 (+ 9.0)	757	2,415 (+ 9.2)	1,980 (+ 8.4)	1,897 (+ 8.3)	2,560 (+ 11.2)	2,024 (+ 12.9)
47 年 6 月	2,104 (- 3.8)	1,366 (- 10.0)	738	2,120 (- 4.8)	1,658 (- 12.6)	1,732 (- 1.1)	2,274 (- 2.4)	1,705 (- 6.4)
7 〃	2,249 (+ 6.9)	1,426 (+ 4.4)	823	2,333 (+ 10.1)	1,749 (+ 5.4)	1,783 (+ 2.9)	2,407 (+ 5.8)	1,840 (+ 7.9)
8 〃	2,339 (+ 4.0)	1,680 (+ 17.8)	659	2,388 (+ 2.3)	2,106 (+ 20.4)	1,884 (+ 5.7)	2,721 (+ 13.0)	2,169 (+ 17.9)
9 〃	2,513 (+ 7.4)	1,724 (+ 2.6)	789	2,523 (+ 5.7)	2,085 (- 1.0)	2,023 (+ 7.4)	2,553 (- 6.2)	2,063 (- 4.9)

- (注) 1. 四半期計数は月平均。
 2. カッコ内は対前期(月)比増減率(%)。
 3. 季節調整はセンサス局法による。

品目別(通関ベース)にみると、船舶、ラジオ、二輪自動車、科学光学機器等が引き続き好伸したほか、このところやや伸び悩みをみせていた自動

車、テレビ等もかなりの伸びを示し、鉄鋼も久方ぶりに前年水準を上回った。

通関輸出の内訳

(単位・百万ドル)

	47年			47年	
	1~3月	4~6月	7~9月	8月	9月
食料品	138	146	188	63	65
	(- 5)	(- 3)	(- 3)	(- 7)	(+ 10)
魚介類	89	96	143	49	50
	(+ 25)	(+ 31)	(+ 41)	(+ 29)	(+ 63)
繊維・同製品	609	725	774	250	268
	(+ 10)	(+ 2)	(+ 8)	(+ 3)	(+ 15)
合繊糸	81	88	91	30	31
	(+ 2)	(- 16)	(- 17)	(- 25)	(- 8)
綿織物	46	58	62	20	21
	(+ 21)	(+ 20)	(+ 22)	(+ 19)	(+ 20)
合繊織物	165	194	215	70	78
	(+ 11)	(+ 2)	(+ 14)	(+ 13)	(+ 17)
化学製品	394	416	456	157	144
	(+ 16)	(+ 12)	(+ 19)	(+ 21)	(+ 14)
非金属鉱物製品	104	117	128	42	43
	(+ 26)	(+ 22)	(+ 25)	(+ 23)	(+ 34)
金属・同製品	1,029	1,107	1,284	416	455
	(+ 7)	(- 4)	(+ 5)	(+ 3)	(- 13)
鉄鋼	779	812	951	307	338
	(+ 5)	(- 10)	(- 1)	(- 1)	(+ 5)
機械機器	3,399	3,453	3,992	1,265	1,443
	(+ 36)	(+ 25)	(+ 29)	(+ 31)	(+ 35)
(船舶を除く)	2,813	3,018	3,352	1,070	1,178
	(+ 40)	(+ 26)	(+ 28)	(+ 24)	(+ 36)
事務用機器	102	108	123	39	44
	(+ 19)	(+ 19)	(+ 29)	(+ 30)	(+ 25)
テレビ	124	144	158	46	63
	(+ 27)	(+ 15)	(+ 3)	(- 17)	(+ 26)
ラジオ	199	246	294	95	101
	(+ 31)	(+ 36)	(+ 32)	(+ 26)	(+ 36)
自動車	731	681	699	204	260
	(+ 67)	(+ 23)	(+ 17)	(+ 9)	(+ 37)
二輪自動車	216	205	191	59	59
	(+ 62)	(+ 43)	(+ 41)	(+ 13)	(+ 33)
船舶	586	434	639	195	264
	(+ 20)	(+ 17)	(+ 36)	(+ 88)	(+ 31)
光学機器	158	189	204	64	71
	(+ 35)	(+ 35)	(+ 36)	(+ 30)	(+ 46)
テープレコーダー	128	156	177	57	60
	(+ 36)	(+ 38)	(+ 29)	(+ 18)	(+ 30)
その他	492	615	676	225	222
	(+ 6)	(+ 5)	(+ 9)	(+ 2)	(+ 23)
合計	6,164	6,579	7,518	2,427	2,639
	(+ 22)	(+ 13)	(+ 19)	(+ 18)	(+ 25)
(船舶を除く)	5,578	6,145	6,859	2,223	2,375
	(+ 22)	(+ 12)	(+ 17)	(+ 13)	(+ 25)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

通関輸入の内訳

(単位・百万ドル)

	47年			47年	
	1~3月	4~6月	7~9月	8月	9月
食料品	798	886	884	290	326
	(+ 13)	(+ 29)	(+ 33)	(+ 44)	(+ 37)
肉類	61	82	91	30	33
	(+ 142)	(+ 80)	(+ 68)	(+ 60)	(+ 83)
魚介類	120	137	141	49	46
	(+ 74)	(+ 66)	(+ 51)	(+ 56)	(+ 43)
小麦	73	92	88	23	34
	(- 19)	(+ 15)	(+ 46)	(+ 67)	(+ 41)
とうもろこし	62	56	65	22	21
	(- 5)	(- 4)	(+ 11)	(+ 10)	(+ 15)
砂糖	96	116	127	33	60
	(+ 3)	(+ 30)	(+ 94)	(+ 42)	(+ 179)
原燃料	2,981	3,026	3,228	1,139	1,122
	(+ 7)	(+ 5)	(+ 21)	(+ 37)	(+ 29)
羊毛	88	113	120	42	48
	(+ 33)	(+ 53)	(+ 76)	(+ 66)	(+ 158)
綿花	170	183	125	50	40
	(+ 27)	(+ 26)	(+ 9)	(+ 47)	(+ 28)
鉄鉱石	310	275	326	112	110
	(- 2)	(- 22)	(- 1)	(+ 12)	(- 1)
鉄鋼くず	22	24	27	11	8
	(- 49)	(- 19)	(+ 1)	(+ 14)	(- 4)
非鉄金属鉱	217	237	272	88	80
	(- 12)	(- 11)	(+ 1)	(+ 6)	(- 17)
大豆	111	119	115	44	37
	(+ 2)	(+ 28)	(+ 19)	(+ 43)	(+ 3)
木材	363	438	429	146	153
	(- 6)	(+ 15)	(+ 40)	(+ 61)	(+ 70)
石炭	248	263	282	113	87
	(- 9)	(0)	(+ 14)	(+ 78)	(+ 8)
原油	921	878	992	334	375
	(+ 35)	(+ 16)	(+ 27)	(+ 31)	(+ 44)
化学製品	266	258	296	109	99
	(+ 8)	(+ 4)	(+ 29)	(+ 50)	(+ 33)
機械機器	725	613	596	199	201
	(+ 13)	(- 7)	(+ 16)	(+ 10)	(+ 36)
航空機	168	90	60	6	15
	(+ 101)	(- 35)	(+ 12)	(- 82)	(+ 193)
その他	647	737	849	300	301
	(+ 29)	(+ 39)	(+ 44)	(+ 53)	(+ 61)
非鉄金属	191	213	237	88	79
	(+ 17)	(+ 13)	(+ 26)	(+ 32)	(+ 33)
合計	5,417	5,520	5,865	2,045	2,049
	(+ 11)	(+ 10)	(+ 26)	(+ 8)	(+ 35)
工業用原料	3,551	3,622	3,908	1,381	1,359
	(+ 8)	(+ 8)	(+ 24)	(+ 41)	(+ 34)
一般消費財	220	253	299	108	104
	(+ 64)	(+ 68)	(+ 71)	(+ 72)	(+ 67)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

地域別では、欧州向けが引き続き高い伸びを示したほか、米国向けが前年の低水準もあって高い伸びを示した。

先行指標である輸出信用状接受高(季節調整済み、前月比)は、9月に+7.4%と高い伸びを示したあと10月も+2.0%と引き続き増勢を持続した(原計数の前年同月比9月+20.2%、10月同+28.0%)。品目別にみると、一般機械が全地域にわたり好伸びしたほか、鉄鋼、電気機械も非米向けを中心に堅調を持続している。この間、自動車は米国向けがやや伸び悩んだほかは、各地域向けとも上伸びした。地域別では米国向けが前年比+13%と前月(+15%)に引き続きかなりの伸びとなったほか、非米地域向けでは、欧州向け、アジア向け、その他地域向けとも高い伸びを示した。

9月の輸入(国際収支ベース)は、季節調整済みの前月比で+2.6%と、海員スト解決に伴う反動から著増をみた前月(同+17.8%)に比し伸び率は鈍化した。海員ストの影響を除去してみると引き続き増加基調を示している(原計数の前年同月

比でも+36.9%と高水準)。なお、通関ベースでの邦貨表示額でも前年同月比+20.3%と高い伸びを示した。

品目別(通関ベース)にみると、鉄鉱石、非鉄金属を中心とする金属原料が前年水準を下回ったものの、食料品(肉類、魚介類、砂糖等)、繊維原料(羊毛、綿花等)が引き続き伸長したほか、木材、原油も前年水準を大幅に上回った。

9月の輸入承認額は、前年同月比+28.7%と8月に次ぐ本年2番目の高い伸びを記録した。なお、季節調整後前月比では-4.9%の減少となったが、これは、前月が原子力発電関係で特殊大口の承認取得があったという事情から異常に高かったため、基調的には増加傾向にあるとみられる。

品目別には羊毛、木材、石油等が堅調を持続している。

9月の輸入素原材料在庫(季節調整後)は、前月比+2.2%と増加し、同消費が+0.9%にとどまったため、在庫率は97.4(前月96.1、40年=100)と前月比1.3ポイント上昇した。